

令和3年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立郡山高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』

→別紙1を参照

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図

→別紙2を参照

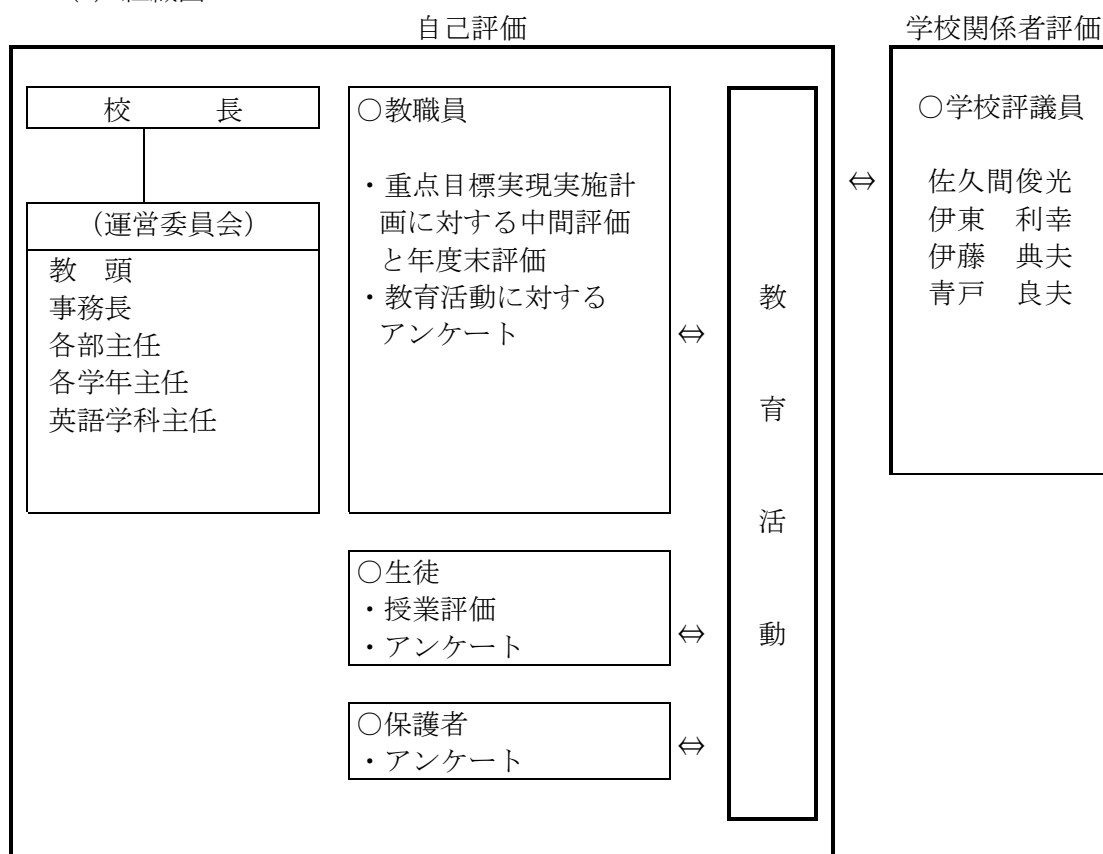
学校経営の継続性や発展性と生徒の実態を踏まえ、本校の教育活動の目標等が容易に理解できるよう、目標達成のための具体的な実施計画と実施時期を明示した重点目標実現実施計画書を作成して、生徒・保護者・教職員・地域の方々が理解しやすい様式にしている。

(3) 作成のプロセス

前年度の学校評価の結果を踏まえ、校長の指導のもと、「学校目標(評価)検討委員会」で原案を作成し、全教職員の共通理解を得て作成した。

2 校内組織体制について

(1) 組織図



(2) 組織作成のねらい、意図

運営委員会が学校目標検討委員会を兼ねて、学校経営・運営ビジョンと学校評価に関わる各種計画の検討や作成等を行える体制としている。また、人事評価制度と連動させることで、全職員が主体的に職務を遂行し評価に参画できる組織づくりを意図している。

3 自己評価年間計画について

(1) 年間計画表

P D C A	月	自己評価	学校関係者評価
P l a n	4	○令和3年度学校経営・運営ビジョン策定 ○令和3年度重点目標実現実施計画書策定 ○保護者等への学校経営・運営ビジョンの公表 ○学校目標検討委員会 ・学校評価年間計画案の作成	○学校評議員の委嘱
	5		○第1回学校評議員会（6月開催） ・学校経営・運営ビジョン等の説明
D o (1)	4～9	・学校経営・運営ビジョン、各部・学年の努力目標・実施計画に基づく実践	
C h e c k (1)	9	○学校目標検討委員会 ・重点目標実現実施計画に対する中間評価及び実施計画の作成	
	10	○重点目標実現実施計画に対する中間評価の実施	
	11		○第2回学校評議員会（11月開催） ・重点目標実現実施計画に対する中間評価の報告
D o (2)	10～12	・中間評価を指針とする、各部・各学年における努力目標や具体的な指導計画に基づいた実践	
C h e c k (2)	11	○学校目標検討委員会 ・重点目標実施計画に対する年度末評価及び授業評価・アンケートの実施計画策定 ○保護者等へ中間評価のまとめの公表	
	2	○「自己評価実践報告書」の作成 ○重点目標実現実施計画に対する年度末評価	○第3回学校評議員会（2月開催） ・授業評価と学校評価結果の報告 ・「評価書」の作成
A c t i o n	3	○「自己評価実践報告書」「評価書」の県教育委員会への提出 ○保護者等への「自己評価実践報告書」と「評価書」をホームページに公表 ○令和4年度「学校経営・運営ビジョン」の検討・策定	

(2) 年間作成のねらい、意図

- ・学校評価の1年間の流れが明確になるように、月別に実施項目を記載し作成した。
- ・授業評価を学年、教科、科目別の実施し、評価結果のデータを共有した。
- ・実践的かつ効果的な評価ができるとともに、P D C Aサイクルが良好に循環するよう配慮して計画した。

(3) 自己評価年間計画実施状況

- ① 重点目標実現実施計画に対する中間評価は、概ね予定通り実施できた。
- ② 授業評価を11月に実施することにより、各教科での学習指導に反映させることができた。

II 評価結果の概要

1 実施方法等

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
学校教育活動に対する教職員自己評価	学校目標検討委員会	4分法	アンケート	・同一の観点に基づき教職員、生徒及び保護者それぞれの集計結果を比較できるように評価項目を設定した。
学校教育活動に対する生徒の評価	学校目標検討委員会	4分法	アンケート	
学校教育活動に対する保護者による評価	学校目標検討委員会	4分法	アンケート	
重点目標実現実施計画に対する部・学年・教科の自己評価	学校目標検討委員会	4段階評価と記述	協議	・実施目標の達成度について評価
学校評議員による外部評価	学校目標検討委員会	記述	アンケート	

2 アンケート及び回答数

→別紙3-1～7を参照

評価	学校教育活動に対する年度末評価アンケート			
	対象数	回答数	割合	
教職員	51	43	84.3%	
教職員以外	生徒	779	563	72.2%
	保護者	829	541	32.7%

※本年度より、グーグルフォームでの回答に変更した。その結果、教職員の回答が大幅に増えたが、生徒・保護者の回答率が大幅に下がった。紙媒体に比べ、強制力が下がったととらわれた恐れもあることから、次年度以降、広報活動を強化したい。

3 評価基準について

(1) アンケートの評価基準

評価	1	2	3	4
評価基準	十分達成されている。	まあまあ達成されている。	あまり達成されていない。	まったく達成されていない。

(2) 重点目標実施計画に対する各部・学年・教科による評価

評価	◎	○	△	×
評価基準	80%以上達成	70%以上達成	60%以上達成	達成60%未満

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価の目的、意図

アンケート形式による教職員の自己評価、生徒・保護者による評価を行い、重点目標の実践状況や達成状況を把握して次年度に課題の改善を図ることにより、教育活動の活性化を推進する。

(2) 重点目標実現実施計画に対する自己評価

評価結果は別紙2のとおり、コロナ禍の状況においてほとんどの項目について達成状況はほぼ良好である。

(3) 分析に基づく改善の方向

①教職員の自己評価

多くの項目において、肯定的評価（1・2評価）が80%を超えている。特に、質問3の「本校の生徒は、高校生としての自覚が感じられ、節度ある生活を送っている」質問3「本校の生徒は、部活動と生徒会活動に熱心に取り組んでいる」についても肯定的評価が高いことから、文武両道を踏まえた効果的な教育活動が行われていることが見てとれる。一方で、コロナ禍により、PTA行事が自粛され、保護者と教職員の協力体制に不

安を訴えている。また、交通安全指導やホームページの充実については、改善が望まれている。

②生徒の評価

すべての質問で肯定的評価（1・2評価）が80%を超えている。なかでも「交通安全に関する指導を行い、生徒の交通安全意識を高めていますか」という質問7に関しては、昨年度同様生徒と教職員の評価にずれがあるものの、今年度も、生徒の安全意識は高い。しかしながら、自転車の被害事故が多いことから、引き続き指導を継続する必要がある。

③保護者の評価

全項目にわたり、肯定的評価を獲得している。特に質問10の「郡山高校に入学してよかった」は高い評価となっている。このことは、本校の取り組みが多く数の保護者に受け入れられていることを示すものであり、例年高い評価を得ている。本校の取り組みが、保護者に理解され、受け入れられていると判断される

III 広報の概要

1 目的や意図

目的は、教育活動の内容とその評価を公表することで学校としての説明責任を果たすことである。その過程で教職員、生徒、保護者、地域社会から意見を聴取することにより信頼関係が深まり、本校の教育活動に対する関心や協力をさらに高めることに繋げたい。

2 実施計画・実施状況・配付対象・配付時期・方法等

月	実施計画・実施状況の内容
4	○郵送にて『学校経営・運営ビジョン』を配付・説明 ○ホームページに『学校経営・運営ビジョン』を掲載
6	○第1回学校評議員会において、『学校経営・運営ビジョン』を配付・説明
11	○第2回学校評議員会において、『重点目標実現実施計画に対する中間評価の結果』を説明
2	○第3回学校評議員会において、『授業評価』『年度末評価結果』を説明
3	○『重点目標実現実施計画に対する年度末評価の結果』『年度末評価結果』を教職員に配付 ○ホームページに『年度末評価結果』を掲載（予定）

3 実施してみたの反省点

本年度より、本アンケートの実施様式をグーグルフォームに変更した。それにより、回答率は若干減少の傾向が見られた。次年度以降、実施に当たっては、引き続き丁寧に説明していきたい。一方で、変更により、学校への要望や不満など、より幅広く率直な意見を集約でき、改善傾向も見られるが、問題もある。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果、次年度の取組

評価をとおして、教職員、生徒、保護者の本校の教育活動に対する評価は依然としてかなり高いことがわかる。しかし、今年度も新型コロナの影響により課題の一つである保護者の行事等への参加率をいかに高めるかについては、どの学年も7割程度と比較的低い評価となっている。引き続き、オンラインによる新しい形での質の高い内容、ホームページの改善などが課題と考える。

2 自己評価全体の次年度に向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

(1) 学校経営・運営ビジョンについて

今年度の学校評価を実施して明らかになった課題や問題点についてさらに分析をすすめ、優先事項を検討し重点目標及び実施計画を策定し、必要に応じて改善を加える。

(2) 組織について

運営委員会のメンバーが学校評価委員会を兼ね、中間評価や人事評価をもとにマネジメント機能が向上する組織運営を行う。

(3) 年間計画について

教職員と評議員がお互いの考えを伝え合い風通しのよい学校組織となるよう、活発に意見を交換できるような評価計画のあり方を検討する。

(4) その他

教職員一人ひとりが学校経営に対する参画意識を高め、学校評価の意図を認識し、学校が抱えている課題の解決に向けて取組む体制を強化するとともに、新しい生活様式に対応した学校運営に保護者にも積極的に加わってもらいたい。

3 終わりに

本校は、今年度も、学校評議員より適切な助言を受けながら教育活動を展開してきた。今後とも、今年度の教育実践をとおして得られた成果をもとに、改善すべき課題に取り組み、保護者や地域の期待に添うことができるよう、高次元での文武両道を図り生徒の人間的成長と学力向上を目指す学校の組織作りを実践していきたい。